

福山大学 経済学部 国際経済学科 平成30(2018)年度 自己点検・評価書

基準1. 使命・目的等

領域: 使命・目的、教育目的

2018年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	大学の建学の理念や教育理念に基づき、経済学部の使命・目的の設定は完了している。経済学部の目的(経済学部規則第2条2)に次のように定められている。 経済学部は、経済学・経営学の両方の視座から社会を鳥瞰できる学生を育てるとともに、企業や組織体を牽引するような潜在力を育む。 国際経済学科は、広い視野と実践能力を持ち、国際経済を日本経済とのかかわりでとらえることのできる人材を育成する。 これは平成24、25年に議論され、平成26年度から経済学部の目的として、経済学部規則に示された。今後もこの使命・目的を踏襲する。

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	国際経済学科の使命・目的は「広い視野と実践能力を持ち、国際経済を日本経済とのかかわりでとらえることのできる人材を育成する」。であり、具体的かつ明確である。
年度目標	この使命・目的に基づき、具体的なグローバル教育を実践する。
年度報告	トップ10プログラム、交換留学やトビタテ！留学JAPAN地域人材コースに学生を送り出した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ ②経済学部ブログ ③国際経済学科ニュースレター
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	国際経済学科では、グローバル人材の育成を目標に掲げており、その個性・特色を学内外に明示している。
年度目標	広報活動を通じてさらにわかりやすく学外に明示する。
年度報告	トップ10プログラム、交換留学やトビタテ！留学JAPAN地域人材コースに学生を送り出した。
達成度	S
改善課題	さらに、学外に広報する必要がある。
根拠資料	①学長室ブログ ②経済学部ブログ ③国際経済学科ニュースレター
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	グローバル化が進む今日、社会の要請や背景の変化について、学科会議等で検討している。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	学科会議において検討した。
達成度	A
改善課題	社会のニーズと高校生のニーズのギャップをどのように調整するか。
根拠資料	各回学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	色々な考え方があるが、おおむね理解と支持が得られている。また、学科会議で自由に議論する環境が整っている。
年度目標	さらなる理解と支持のために議論する。
年度報告	学科の使命・目的及び教育目的は明確になっており、教職員の理解は得られている。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	各回学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し周知していますか。
現状説明	学長室ブログ、経済学部ホームページやSNSなどを通じて、国際経済学科のミッションと活動を学内外に公表周知している。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	トップ10プログラム、交換留学やトビタテ！留学JAPAN地域人材コースなどの活動を公表した。
達成度	S
改善課題	さらに学外への公表周知に努める。
根拠資料	①学生便覧 ②学部ホームページ ③大学要覧 ④学長ブログ ⑤学科ニュースレター ⑥学科FB
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 中長期的計画へ反映していますか。
現状説明	学部の長期ビジョンや学科の将来構想に反映している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	使命・目的および教育目的に基づいた広報活動を実施した。
達成度	S
改善課題	さらに学外への公表周知に努める。
根拠資料	①大学要覧 ②学長ブログ ③学科ニュースレター
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーへ反映していますか。
現状説明	アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーのいづれにも反映している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特にない。
根拠資料	①学生便覧 ②大学ホームページ ③大学要覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	外国人教員も2名在籍しており、グローバル人材育成という目的との整合性は取れている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	さらなるグローバル人材教育のために若手教員の採用を計画する。
根拠資料	①大学ホームページ ②大学要覧
次年度の課題と改善の方策	

基準2. 学生**領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

中長期計画	学生の受け入れに関しては入学定員充足率100%を目指して学科教員全員が今まで以上の努力をする必要がある。経済学部の重要課題のひとつとして退学者問題がある。退学者への対応は退学原因を洗い直すと共に、具体的な対策を検討する。学生の数学能力の向上を図る。教養ゼミにおいて中高レベルのリメディアル講義を実施してきたが、この方法を再チェックし、継続するか、異なる方法が必要かの判断をする。複数の教員が一人の学生に関与する体制を維持する。学生生活に関する相談や進路支援、学習環境の整備や学生の意見をどのように反映するかについても担任、副担任、学科長、学部長等が連携をして学生の状況を把握し対策する。

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	国際経済学科のアドミッション・ポリシーを大学要覧やホームページなどで学内外に周知している。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	高校訪問や広報活動で周知を行った。
達成度	A
改善課題	さらに学外への公表周知に努める。
根拠資料	①学生便覧 ②大学ホームページ ③大学要覧 ④学長ブログ ⑤高校訪問出張報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	定員割れをしているので必ずしもアドミッション・ポリシーに沿った学生ばかりが入学しているとはいいがたい。グローバル人材強化指定校入試はその対策となるべきであるが、機能しているとはいいがたい。
年度目標	グローバル人材強化指定校入試などのPRに努める。
年度報告	グローバル人材強化指定校入試志願者がゼロであった。
達成度	B
改善課題	グローバル人材強化指定校入試などのPRに努める。
根拠資料	①指定校入学試験資料
次年度の課題と改善の方策	さまざまなツールを用いてグローバル人材強化指定校入試などのPRに努める。

点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	昨年度(H28年度)は入学定員充足率が42%であり、今年度(H29年度)は76%であった。増加原因は不明な部分が多いが経済学科の応募者増加が影響しているものと思われる。また、経済学科に入学した学生のうち国際志向の強い学生にはなぜ国際経済学科でなく経済学科を選択したかを聞き取りもしている。
年度目標	さらに詳しく分析し、入学定員充足率を向上させる必要がある。
年度報告	経済学科の志願者増に伴い、国際経済学科志願者も増加した。
達成度	A
改善課題	経済学科、税務会計学科との違いの周知に努める。
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	入学定員50名を満たしていない。学科長を中心に対策を考え、その対策を学長に提出している。高校訪問、高校への出前授業、高校での進路説明会への参加等、学科教員が積極的に行なうことを確認している。また、グローバル人材育成という学科の特徴を学外に周知するために、学長室ブログ、学部ホームページやSNSを利用して情報を発信している。
年度目標	さらなる努力を継続する。
年度報告	学科教員全員で高等学校訪問を実施した。高等学校での進路説明会には学科教員が率先して参加した。
達成度	A
改善課題	さらに継続して努力する。
根拠資料	①学科会議議事録 ②高校訪問出張報告書 ③入試広報室資料
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	学科教員による学習支援体制を学内外に公表している。具体的にはTOEIC、HSKや英語によるプレゼンテーションなどがある。全学生について学科にて各学生の学習ポートフォリオを作成し、学科会議にて学生の状況を報告しあい、留年の可能性の高い学生を早期にピックアップして担任・副担任を中心として丁寧に指導している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	計画通り実施した。
達成度	A
改善課題	留年可能性のある学生について早めに保証人に連絡したが、留年を防ぐことができなかつた。

根拠資料	①大学教育センター学習支援資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	現在のところ学科のカリキュラムにおいてTAは活用していない。
年度目標	中国語教育やトップ10カリキュラムにおいてTAを活用したい。
年度報告	トップ10カリキュラムで学生リーダーを採用した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①トップ10カリキュラム計画書 ②学科会議資料 ③学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	教育課程内では1年次生のキャリアデザインⅠ(必修)がある。大学教育センター開講のキャリアデザインⅡ～Ⅳの受講を勧めている。また、インターンシップにも参加するよう教員が学生に指導している。学科としては海外インターンシップについても積極的なチャレンジを期待している。
年度目標	なるべく早い時期からインターンシップに参加するよう指導する。
年度報告	海外研修と時期が重なる等の理由で国内インターンシップ参加者は決して多くなかった。トビタテ！留学JAPAN合格者が、国内及び海外インターンシップを行った。
達成度	A
改善課題	学科の特徴から海外インターンシップについても積極的に参加させたい。
根拠資料	①BINGO OPENインターンシップ参加学生評価表 ②トビタテ！留学JAPAN資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。
現状説明	卒業生の進路に関しては検証している。学科の特色として留学生が多く、大学院進学や帰国後就職する学生が多い。
年度目標	検証し、就職支援、進学支援に努める。
年度報告	今年度までは留学生の比率が高く、大学院進学者が多い。
達成度	S
改善課題	学科の特徴を生かした就職先の開拓が必要である。
根拠資料	①就職課資料

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	TOEICやHSK受験、ビジネス検定の受験等を積極的に勧めている。特にTOEICとHSKについて学科教員が授業時間外に学修支援を行っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	TOEICやHSKに一定の成果が見られた。
達成度	S
改善課題	さらに多くの学生に受験を勧める。インターンシップへの参加を勧める。
根拠資料	①学科会議資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	学部内就職委員とゼミ担任が協力して指導している。模擬面接や履歴書の添削等を担任が実施している。学生に就職課の活用を勧めている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	内定率は向上しているが質の改善が求められる。
達成度	A
改善課題	引き続き努力する。
根拠資料	①就職課資料
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	経済的支援には全学の特別奨学生制度がある。また、留学生に対しては授業料減免制度や各種奨学金があり、ゼミの指導教員が全力でバックアップしている。これらは学生はもちろん教職員にも周知されている。社会にもホームページ等を通じて公開している。また、アルバイトに関しては学生課の窓口を利用するよう指導している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	授業料減免制度や各種奨学金制度について学生に周知するとともに応募を促した。
達成度	A
改善課題	学科単独で行うことは難しい。
根拠資料	①学生課JASSO奨学金資料 ②国際交流課資料
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	ハラスメント防止に関するFDに参加し、学科教員各自がハラスメント防止について意識している。特に学科においてハラスメント防止の方策は実施していない。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	学科内にてハラスメント関連の問題があった。
達成度	B
改善課題	ハラスメントの発生防止に取組む。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	学科教員、学生ともに再度注意を促す。
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	サークル活動については体育会系、文科系を問わず教員が顧問となって活性化の手助けをしている。留学については学科の特色から教員が学生に積極的に提案しており、複数の学生が留学中である。また、尾道インバウンドガイドボランティア、福山国際子どもアカデミーのボランティアにも複数の学生が参加しのボランティアにも複数の学生が参加して、地域で社会貢献活動を行っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	福山国際子どもアカデミーのボランティアにも複数の学生が参加し地域に貢献した。留学、海外研修でのボランティア活動など積極的に行っている。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①福山国際子どもアカデミーHP ②学長室ブログ ③国際経済学科FB
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	校地、校舎等の整備については学科では実施不可能である。大学全体としては、十分とは言えないが、順次整備されている。学科に留学生が増えており、留学生のための施設が十分ではない。学生のためのアメニティーが貧弱である。討論しながら快適に自習できるような環境はプロジェクトラウンジやラーニングコモンズなど整いつつある。これらの施設を最大限に活用している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	
改善課題	運営・管理は学科レベルで行うものではないが、施設を積極的に活用する。
根拠資料	

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	図書館のラーニングコモンズや共同利用センターのプロジェクトラウンジなどを利用している。ICT教室については情報教育の授業で使用しており、使用方法を学習した学生が授業時間外にも活用している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	プロジェクトラウンジ、ラーニングコモンズの利用が多くはなかった。
達成度	A
改善課題	より積極的に活用するよう努める。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	バリアフリーに関しては学科単独での対応は不可能である。アメニティースペースの確保については女子学生が昼食等をとることができる部屋を1号館5階に確保している。
年度目標	パソコン必携化に伴いパソコンを利用して自習や歓談ができるスペースを設けたい。
年度報告	女子学生用に準備したスペースは広く学生に利用された。
達成度	A
改善課題	特になし。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	時間割と教室の関係から教室がかなり不足しており、教務委員が頭を悩ませている。他学部・他学科との関係もあり単独で解決できる問題ではない。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	カリキュラムのスリム化が必要である。
根拠資料	①2018教務の手引き
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	学科単独の施設・設備がないため整備点検を行っていない。
年度目標	現状を維持する。

年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	① 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	劇物・危険物はない。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	特になし。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	防災訓練に関しては大学祭時に全学の火災訓練に教員・学生が参加した。学科単独では実施していない。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	危機管理基本マニュアルを学部にて検討している。
達成度	A
改善課題	AEDの使い方など学ぶ必要がある。
根拠資料	①福山大学危機管理基本マニュアル ②海外での留学・研修などに係る安全マニュアル
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学生の意見・要望を把握する体制は構築されていない。現状では担任がその都度吸い上げ、学科会議等で議論している。
年度目標	体制を構築し、分析するシステムを整備する必要がある。
年度報告	学科で学修支援を行っているが、学生の意見を分析検討できていない。
達成度	B
改善課題	学生の意見を分析検討する。

根拠資料	①大学教育センター学習支援に関する各種資料
次年度の課題と改善の方策	学科会議にて学生の意見を分析検討する。
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学生の担任、副担任、「学科長、学部長が配慮をしている。必要な場合には、心身の健康維持のために、カウンセリングを受けることを勧める。学生がカウンセリングを受けることを嫌う場合には、担任がカウンセリング担当者から助言を受ける。
年度目標	発達障害を抱える学生や不登校になる学生が増えているのでケアを行う。
年度報告	学生からカウンセリングを受けたいという相談があり、カウンセラーに連絡を取らせた。
達成度	S
改善課題	特にない。
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	学修環境も学修支援と同様に、従前から関係部署と連携をとりながら各種支援を行う体制が構築されており、学生便覧や各種オリエンテーション、ガイダンスで周知している。社会にもホームページ等を通じて公開している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

基準3. 教育課程

領域：卒業認定、教育課程、学修成果

2018年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	卒業認定に関しては、基本的に学部・学科のディプロマ・ポリシーに基づく。ディプロマ・ポリシーに基づきカリキュラムが編成されているので、そのカリキュラムに対しての学習成果を平成29年度に作成したアセスメントポリシーを用いて、学科における教育課程と学修成果について、評価を行い、必要があれば教育課程を改善する。また、学生個人の卒業時における学修成果についてもアセスメントポリシーに基づいて評価する。
-------	--

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーは学生便覧、大学要覧やホームページにより学内外に周知されている。

年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①大学要覧 ②福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の作成は教務委員を中心に学科で議論し、その議論結果に基づき学部教授会で審議している。これらの基準に関してはカリキュラム表、カリキュラムマップ、卒業論文ループリックなどの形で学内または学外に周知している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ ②経済学部パンフレット(平成29年度版) ③経済学部教授会議事録 ④カリキュラム・ポリシー ⑤卒論ループリック
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	単位認定基準、進級基準、卒業認定基準は学生便覧等で公表しており、厳格に守られている。また、卒業認定基準の一部として卒業論文ループリックに関しては学生に開示している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	編入留学生の単位読み替え、留学した学生の単位読み替え、認定、海外研修の単位認定など、公平な評価についての課題が多い。
達成度	A
改善課題	イレギュラーな単位認定のマニュアル化を進める。
根拠資料	①学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 3-2. 教育課程及び教授方法	
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーを策定し、ホームページや学生便覧で公表している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	入学時オリエンテーションで新入生にカリキュラム・ポリシーを徹底する。
根拠資料	①カリキュラム・ポリシー ②卒論ループリック
次年度の課題と改善の方策	
点検項目 ② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。	
現状説明	一貫性は検証されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	カリキュラム・ポリシーの適切性の検討や、カリキュラムマップの見直しを継続的に行う。
根拠資料	①カリキュラム・ポリシー ②卒論ループリック
次年度の課題と改善の方策	
点検項目 ③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。	
現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、学科の特色ある教育課程を編成している。特に海外経験と欧米、中国および東南アジアと日本との結びつきをとらえる科目を体系的に設置している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	カリキュラム・ポリシーに基づきトップ10カリキュラムを実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①カリキュラム・ポリシー ②トップ10カリキュラム計画書 ③学長室ブログ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目 ④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。	
現状説明	卒業要件として初年次教育科目、外国語などの共通基礎科目、教養教育科目、キャリア教育科目の卒業必要単位数を設け、学生に学生便覧で公表しており、十分に実施されている。

年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。専門外国語は学部全体を学科教員が担当した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①2018学生便覧 ②2018教務の手引き
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	アクティブラーニングを教養ゼミ、基礎ゼミ、演習などの少人数クラスを中心に取り入れている。また、教材の配布、課題の配布と提出、学生へのフィードバックなどにゼルコバやセレッソを利用しているが、十分とは言えない。
年度目標	さらなる工夫を行う。
年度報告	ICTの活用は進んでいない。
達成度	A
改善課題	ICTの活用を推進する。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	選択必修科目等の配置によりディプロマポリシーと卒業判定との整合性を図っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①学部教授会議事録(卒業判定資料)
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	平成29年度に作成したアセスメントポリシーを平成30年度から利用し検証する予定である。
年度目標	平成30年度より検証を始める。
年度報告	アセスメントポリシーを作成した。
達成度	S
改善課題	検証する必要がある。

根拠資料	①国際経済学科アセスメントポリシー
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	学生による授業評価アンケート結果に対して、口頭またはセレッソを通じてフィードバックを行っている。この評価結果に基づき、教員が学修指導等の改善につなげている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	学生による授業評価アンケート結果に基づき学科にて授業改善のFDを行う。
根拠資料	①授業評価アンケート集計結果
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

基準4. 教員・職員

領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2018年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	中長期計画は、これまでの「平成24年度、25年度年度計画」と26年度の「経済学部構想」に基づく。教育研究組織としての学部学科のありようは、平成26年度からの新しい目的、新しいディプロマポリシーにおいてすでに明らかにされている。これらにしたがって、学科に基本となる講義科目、それを担当する研究者を採用してきた。学部内でのFD研修や教員の研究しやすい環境づくりを検討する。
-------	--

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学科長は月に1回学科会議を招集し、学科内の意見・問題点を汲み上げている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	ほぼ現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①国際経済学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	学科教員はそれぞれ全学的な委員会に属しており、学科内で役割に応じてイニシアティブを発揮している。また、特定の個人に役割が偏らないように、学部運営委員会にて調整している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	大学での役職者が多い中、特定の教員に仕事が偏ることもあった。
達成度	A
改善課題	特になし。
根拠資料	①福山大学諸委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	職員の配置については学科には権限はない。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	
改善課題	特になし。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	年齢別構成40代3名、50代3名、60代2名、70代1名である。うち外国人教員2名、女性教員が1名であり、教授4名、准教授3名、講師2名であり、ほぼ適切に整備されている。
年度目標	昇任人事を進める。
年度報告	昇任人事や任期はずし人事を行った。
達成度	A
改善課題	昇任人事、新規採用を実施する。
根拠資料	①経済学部教授会議事録(人事)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	現在は大学設置基準を満たしている。

年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	来年度定年退職者がいるので、1名の増員を要求する。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	研修会というような大掛かりなものは実施していない。教育内容・方法等については学科会議等で議論している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	今年は実施できなかった。
達成度	C
改善課題	学科でのFDを実施したい。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	授業評価アンケート結果と授業改善についてのFDを開催したい。

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	全学的なFD・SD活動に参加することで大学運営にかかわる教職員の資質・能力向上は図られている。特に学科独自の取り組みは行っていない。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	教職協働は実現できている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	活用はゼルコバ、セレッソの一部機能であり、限定的である。新ゼルコバに期待している。
年度目標	さらなる活用を行う。
年度報告	現状のままであった。
達成度	A
改善課題	会議資料等のペーパーレス化を進めるべき。

根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	全学的な委員会の数が多く、各教員の希望や適性に応じた役割分担ができていない。教員は全員複数の委員会を掛け持ちしており、研究に専念する時間の確保は難しい。研究室は各自1部屋与えられており十分に確保され、管理されている。
年度目標	職務の効率化を図り研究時間の確保を目指す。
年度報告	相変わらず教員の委員会負担が大きい。
達成度	B
改善課題	職務の効率化を継続して図る。
根拠資料	①各委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	大学の規定に準じて教員に周知している。また、学部内で研究倫理に関するFD研修会を実施した。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	個人研究費、学内助成金、ブランディング事業への参加等研究活動への資源配分や運用は適正に行われている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学内助成金資料
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか
現状説明	FD研修を受け、また、インターネット上で講習を受けテストをしている。これにより十分周知されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	他学部・他学科同様の研修を全員が実施した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①科学研究費助成事業ガイドライン ②経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

基準6. 内部質保証

領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2018年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	平成26年度に提示された学部の新しいミッション、学科のディプロマポリシー カリキュラムポリシーに基づき、そして、それらを具体化した新カリキュラムに従って計画される。国際経済学科においては、地域に貢献できるグローバル人材の育成という大目標のもとに、1年次から学生を海外研修に連れ出し、自分の五感で海外を体験させ、2年次にはトップ10プログラムで問題解決型の海外研修を欧米・中国・東アジアの3地域のうちいずれかで行う。3年次には海外長期留学や海外長期ボランティアを体験させ、海外と日本を比較することで、より日本をよく理解できるよう研修を行う。年2回のTOEIC模擬試験と年1回のTOEIC公開試験の受験などの成績をポートフォリオ化し、学習成果の可視化を行うとともに学習の質を保証する。また、アセスメントポリシーに基づき、PDCAサイクルを回す。
-------	--

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	内部質保証のための組織としては、学科会議、学部運営委員会、学部教授会があり、学部長を中心に責任体制は確立している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特に変更する必要はない。
根拠資料	①経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	学生による授業評価は実施され、教員による対応もシラバスに掲載されるが、この全体が公表されているわけではない。授業評価の全体像はホームページ公表されている。また、大学による学生に対する各種アンケートも公表されており、その結果を学科教員が共有している。教員評価も自己点検評価の一部であるが、結果は公表されていおらず、共有していない。平成26年度に経済学部は外部評価を受けた。その結果はホームページで公開されている。その他の諸活動に関しては、学科ホームページ、学長室ブログ、学科Facebookなどを通じて情報を共有している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	内部質保証のために学科で授業評価アンケートについてディスカッションが必要である。
根拠資料	①福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	IRデータについては学科単独での分析を行っていない。
年度目標	大学教育センターIR部門の分析結果を利用して分析を試みたい。
年度報告	分析をすることができなかった。
達成度	C
改善課題	学科単独でどこまでのデータが入手できるのか、どれほどの分析ができるのか。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	学科教員の協力を得て、学科長を中心に自己点検・評価を行い、それを学部運営委員会に提示し、検討されており、PDCAサイクルが確立されつつある。学生による授業アンケート評価結果については学科教員全員の結果を公表しておらず、組織としてのPDCAサイクルは確立していない。
年度目標	PDCAサイクル確立に向けて努力する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	内部質保証のために学科で授業評価アンケートについてディスカッションが必要である。
根拠資料	①学生による授業アンケート結果資料

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	全学ならびに学部の方針にしたがっている。コンプライアンスにかかるFD講演への参加を促している。また、学科会議等による相互チェック機能によりコンプライアンス意識は保持されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	学内他学部・他学科と同様のコンプライアンス研修を実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：本学独自基準と点検・評価

2018年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	国際経済学科における里山里海学については、訪日外国人客の増加や、農林水産物等の輸出・移出により福山市における里山・里海の潜在的な観光資源を生かし、地域の活性化を図ることにしている。また外国人旅行者の増加や、備後地域の里山・里海の特産品の海外ネット市場へのアクセスの方途を検証することにしている。 備後経済研究会については、備後地域の産業集積の現状を歴史的理論的に解明することにしている。個別企業、個別業種のデータを整備し、データベース化を図り事例分析を行うこととしている。
-------	---

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	今年度の計画については、年度初めの学部教授会で周知している。また備後経済研究会については、研究会、講演会の開催時に教職員へ周知している。また関心のある学生・院生・社会人についても参加を呼び掛けている。学科教員2名が学部内意のブランディング戦略担当委員になっており、今後学部におけるブランディング戦略の中心的役割を果たす予定であり、学科全体でバックアップする。
年度目標	現在の努力を継続する。執行率を高める。
年度報告	ブランディング戦略については、年度初めの学部教授会で周知している。 中国市場調査については、大学院の公開ゼミナール、産学連携の成果発表、市民公開講座を開催し、また学生に対しては中国経済論、中国経済特論で周知した。国際経済学科は、学部におけるブランディング戦略の中心的役割を果たしており、学科全体でバックアップしている。
達成度	A
改善課題	国内視察研究が年度末執行となり、関係者との意見交換が出来なかった。
根拠資料	

次年度の課題と改善の方策	次年度では、国内視察研究を取り止め、新たに地方再生研究を取り上げ、テーマと取り組みを刷新する。
点検項目	② 福山大学はプランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からプランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	社会に貢献する観点では、里山・里海経済のグローバル化の観点で検討している点で実際的であること。他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図る点では独自の観光産業の活用を図っている。また社会から選ばれることの点からは企業との連携を重点的に展開しようとしている。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	(学部に準ずる) 備後地域は全国的にも有名な産業集積地である。国際経済学科のトップ10カリキュラム、4大学連携のグローバル人材育成事業などは地域における中心的な取り組みとして実施した。また里山里海に関連する観光産業に関しては、メジャーな地域から地方の魅力を発信する情報が求められており業界からの期待が大きい。税務会計学科の備後経済研究会は、業界、企業に対して大きな貢献を果たしている。これらは、昨年4月から福山商工会議所月刊誌(発行 5,700部)により経済学部の魅力の発信に努めている。なお、研究プロジェクトの予算執行率は、2月末で56.9%(前年度41.1%)であり現時点の比較で上昇している。
達成度	A
改善課題	一部未執行(中国販売ルートなど)があり今後は計画的に執行する。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学プランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	備後地域の産学官民連携を推進の点では企業・行政と連携して事業をしている。関連する事業は備後経済研究会である。備後地域における各種業界の協力を得ながら一体となり、資料の発掘、発見、収集に努めている。また研究会、講演会を通して研究の成果を広めている。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	(学部に準ずる) トップ10カリキュラムでは、産学連携して8月に欧州、2月にニュージーランドの海外研修を実施した。グローバル人材育成事業では、備後圏域4大学と協力して実践的講座、海外研修を行っている。また8月には今年もバリ島研修を実施し人材育成に努めている。
達成度	A
改善課題	一部未執行(中国販売ルートなど)があり今後は計画的に執行する。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	地域企業との連携を図ることで事業を展開しており、地域企業の直面する問題点が明らかになっている。里山・里海学では、観光、流通、商工業振興など備後地域の特性を生かす取り組みを行っている。事業の途中であっても業界、市民へ研究会等を通して還元している。
年度目標	検証し、問題点を探る。
年度報告	(学部に準ずる) 地域創生に貢献することは極めて重要であり、国際経済学科のトップ10カリキュラム、4大学連携のグローバル人材育成事業は地域における中心的な取り組みとなっている。また観光産業に関して、地方においてこそ求められる施策であり業界からの期待が大きく業界関係者から大きな期待が寄せられている。備後地域経済研究会は、長年产学連携で取り組んでいる。昨年4月から福山商工会議所の月刊誌(5,700部)に产学連携の立場で経済学部の魅力を発信して、関係者から高い評価を得ている。。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	備後企業の取り組みの実態を理解させ、就職の対象として考える機会を与えている。このためトップ10カリキュラム、備後地域研究、備後経済論などグローバル、里山・里海の特性を生かす取り組みを行っている。経済学部の卒業生の多くは、2/3が地元に就職し活躍している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	(学部に準ずる) 地域に関連した、トップ10、連携事業としてのグローバル人材育成事業など計画的に実施した。また昨年4月から福山商工会議所の月刊誌(発行 5,700部)に、経済学部の魅力を発信している。「知行合一を基底にした全人教育」を共通テーマにして人材育成、地域連携などについて紹介し、関係業界、企業経営者から高く評価されている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	1. 訪日外国人客の増加、2. 里山・里海の経済をグローバル経済に繋げていく、3. 当地域の農林水産物等の購入促進策を検討、4. 販売ルートの調査等を行っている。また備後経済研究会では個別の企業、個別業種のデータを整備し、データベース化しながら事例分析を行うことしている。講演会、研究会においては、経営者、関心のある市民が参加している。

年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	(学部に準ずる) 備後圏域の里山・里海を活性化する観点から、観光先進地域の大久野島・直島・宮島など6箇所で観光アンケートを実施した。また里山・里海を観光資源にしている長野県根羽村、三重県志摩市などを訪問調査し実地巡査を行った。中国市場への販売ルートについては、里山・里海に関連する食品産業などが新興市場に対するアクセスの可能性について研究し、ホームページ、大学院のゼミナール、産学連携の成果発表、市民公開講座などを通して行政関係者、企業経営者から高い評価を得ている。備後地域の企業研究については、福山市史編纂に加わり、備後地区における機械工業の業界分析などを行い関係者から高い評価を得ている。また昨年4月から福山商工会議所の月刊誌(発行 5,700部)に、経済学部の魅力を発信している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのように取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	学問にのみ偏重しない全人教育として、インターンシップなど企業・行政連携での学びを通して、行動の重要性が考えられるような取組を重視している。その成果を報告会を通して学生に報告させることにより検証している。また、交換留学やトビタテ！留学に積極的にチャレンジさせることによって、多様な価値観を持つグローバル人材を育成する。留学した学生が地域で活躍することでその成果は検証できる。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	(学部に準ずる) 経済学部は民間分野と直接関連している。プランディングの研究テーマは訪日観光客の増加、グローバル経済の進展、地域産業の産業形成などであり計画的に実施した。また昨年4月から福山商工会議所の月刊誌(発行 5,700部)に、経済学部を紹介している。この中で「知行合一を基底にした全人教育」を共通テーマとして人材育成、地域連携などの魅力を発信し、企業経営者などから高く評価されている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	7-2. 福山大学プランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	学科教員2名が学部内意のプランディング戦略担当委員になっており、今後学部におけるプランディング戦略の中心的役割を果たす予定である。学科全体のバックアップ体制はできている。
年度目標	学科を挙げて取り組む。

年度報告	(学部に準ずる) 研究プロジェクトに直接関係する教員は張楓ら大学院担当を含めて4名である。一部の関係教員が他の業務に追われ研究プロジェクトに専念する時間が必ずしも十分でなかった。学部としては、学部長、学科長、事務部局を含めて支援しているが連携が十分でなかった。外部資金を得たある財団法人に対して、事務手続きで混乱を招いたことは大いに反省すべきであった。
達成度	B
改善課題	申請、報告などに関することは、学部事務室が窓口として一元化する。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	次年度では、新たな研究プロジェクトが加わり研究教員も増える。このため教員同士、また窓口との連携を一層深める。
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	外部資金獲得に向けて公益財団法人広島産業振興機構及び公益財団法人JKAと協議した。申請の基本は主として県内企業者であったり、また事業期間は基本的に単年度であることなどから助成対象にならなかった。引き続き獲得に向けて努力する。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	(学部に準ずる) 平成29年度にある財団法人から一部助成を得たが、平成30年度は諸般の事情から断念せざるを得なかった。広島産業振興機構などと協議を行ったが不調に終わった。このため平成31年度の資金獲得に向けて協議を重ねている。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	財団法人などから外部資金を獲得する。
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	里山・里海学に関しては、計画の途中であり、現在まで発表していない。
年度目標	成果が出次第、論文や学会発表など様々な形で発表する。
年度報告	(学部に準ずる) 中国市場調査は、研究活動をふまえて大学院の公開ゼミナール、産学連携の成果発表、公開講座での発表を行った。また企業調査では、『福山市史』の編纂に携わり、また『機械工業100年の歩み』を出版するなど精力的に貢献している。福山商工会議所の月刊誌(5,700部)で経済学部の魅力を発信している。経営者等から高い評価を得ている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	